

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和6年度分)

<県の評価等>

施設所管部名:子ども・福祉部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県身体障害者総合福祉センター（津市一身田大古曾 670 番地2）
指定管理者の名称等	社会福祉法人三重県厚生事業団 理事長 高野 吉雄
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの事業に関する業務 （生活援助棟としての業務、福祉センターA型としての業務） ・センターの施設及び設備の利用の許可等に関する業務 ・センターの利用料金の收受等に関する業務 ・センターの維持管理及び修繕に関する業務 ・その他、センターの管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R5	R6	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	B	B			基本協定書及び年度協定書に基づき適切に管理業務を実施するとともに、機器や設備に支障が生じないように維持管理及び修繕を適切に行っている。
2 施設の利用状況	B	B			生活援助棟の利用者数(R5:21,158人→R6:22,607人)は増加しており、更なる増加に向け、潜在的なニーズの掘り起こし等を考慮する必要がある。
3 成果目標及びその実績	C	C			<p>成果目標は4項目とも目標を達成することができていないが、昨年度より向上している項目もあり、引き続き、地域の潜在的なニーズの掘り起こしを行うとともに、個々のニーズに応じた取組を強化する必要がある。</p> <p>なお、指定管理者が独自に設定した成果目標の地域生活移行率については82.3%であり、目標値の50%を大きく上回っていることから、通過型訓練施設としての役割を果たしている。</p>

※「評価の項目」の県の評価：
 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理業務について、老朽化が進んでいる中、適宜修繕等を実施することで、適正な維持管理を行っている。 ・施設の利用状況について、生活援助棟の利用者数は増加しているとともに、高次脳機能障がい者に対するリハビリを実施しており、専門性を発揮している。 ・成果目標について、新型コロナウイルス感染症による利用率の落ち込みが回復していないものの、昨年度より生活援助棟の利用者数は増えており、引き続き、潜在的なニーズの把握に努めるなど、それぞれの取組の強化が必要である。 ・その他、福祉・医療関係の実習生の受入れや、専門的な知識・技術を持つ職員の派遣など、地域福祉の向上にも寄与している。 ・利用者満足度は、利用者へのきめ細かな対応等が功を奏し、93.4%と高水準となっている。 <p>以上のことから、三重県身体障害者総合福祉センターの指定管理者として、概ね適切に管理・運営を行っている判断する。</p>
--------	--

<指定管理者の評価・報告書(令和6年度分)>

指定管理者の名称: 社会福祉法人三重県厚生事業団

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1)管理業務の実施状況

①三重県身体障害者総合福祉センター事業の実施に関する業務

- ・センターの維持管理業務をはじめ、生活援助棟の業務として「施設入所支援」「日中活動支援」等の事業、また、福祉センターA型の業務として「リハビリテーション」「障がい者スポーツ」等の事業を実施した。
- ・障がい者スポーツ推進について、定期的にスポーツ教室(53回開催、参加者316名)を開催した。
- ・令和6年度三重県初級パラスポーツ指導員養成講習会(7月6日～7日・13日～14日:修了者数11名)を開催した。
- ・第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」:10月26日～28日 三重県選手団として、選手・役員を派遣した。
【個人競技】 出場選手 36名 役員 38名、【団体競技(グランドソフトボール)】 出場選手 15名 役員6名が参加した。個人競技で金メダル14個、銀メダル7個、銅メダル9個を獲得した。
- ・施設貸出では、運動施設(テニスコート・グラウンド・体育館)1,407件、19,640名、研修施設288件、4,930名の利用があった。宿泊施設の貸出について、ニーズの減少により利用はなく、令和7年3月21日に県条例改正により廃止となった。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・昭和60年の開設以降、39年を経過したが、施設及び設備について、仕様書に基づき業務委託する等、適正に維持管理した。
- ・施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務について、体育館東側外灯修理(LED化)など、計127件を実施した。

③県施策への配慮に関する業務

- ・利用者(障がい者)の人権尊重への取組として、意見箱を設置している。
- ・人権に対する意識を高めるため、権利擁護や虐待防止に関する研修を実施した。窓口にて、筆談等による対応を行い、来所される様々な方への対応を行った。
- ・事故を未然に防止するため、各施設においてヒヤリ・ハット事例の検証を行うとともに、全職員が事例や事故防止策を共有した。
- ・職員補充の際には、男女共同参画の観点をつまえて公募するとともに、育児休暇の取得等の環境整備に努めた。
- ・福祉用具セミナー、福祉用具フォーラム等をとおして、福祉用具の相談・自助具の製作、福祉用具や住宅改修の研修を開催する等、福祉用具の普及・促進と産業振興に寄与した。
- ・障がいに対する理解促進や次世代育成の場として活用できるよう、教育、福祉、医療関係機関等からの施設体験や職場体験、実習生、ボランティア(生活援助棟訓練(日中活動)、障がい者スポーツ教室、三重県障がい者スポーツ大会等)の受け入れを行った。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・情報公開については、法人情報公開実施要綱に基づき運用を図った。開示請求は1件だった。
- ・「個人情報保護に対する基本方針」及び個人情報の保護に関する法律に基づく公表事項」を窓口にて公表した。
- ・施設利用者の個人情報の管理について、書類は施錠できる書庫に、デジタルデータはアクセス権を制限する等、管理を徹底した。

⑤その他の業務

- ・行政機関、教育機関等からの依頼により、専門的な知識や技術を有する職員を講師や審査員等として派遣、また障がい者スポーツ教室へも障がい者スポーツ指導員を派遣した。また、258件に対して、無料でスポーツ用具の貸出を行った。
- ・三重県のリフト付バス「太陽号」の適正利用のための利用者確認等を実施した。利用件数は9件、稼働日数は11日だった。

- ・施設利用者及び職員の安全確保のため、年2回の全館避難訓練、年1回の夜間避難訓練(生活援助棟)を実施した。
- また、防犯対策として、防犯カメラを敷地内や出入口に設置しており、警備員室及びスタッフルームで監視できる体制をとっている。また、緊急時に備えるため、さすまたを常備する等している。
- ・施設管理として、除草や樹木の剪定等を定期的を実施して、施設利用者や地域住民の方に安全・安心に利用していただけるようグラウンドをはじめとして整備した。
- ・センター全体の普及啓発として、ホームページの随時更新、パンフレットの刷新を行った。また、広報誌「C」を年2回発行するとともに、YouTube「三重県厚生事業団チャンネル」等により、普及啓発を行った。

(2) 施設の利用状況

施設の利用状況(延利用者数)については、下記のとおりである。(単位:人)

	R5	R6
施設入所支援	10,922	11,866
日中活動支援	10,104	10,640
短期入所	132	101
運動施設	22,892	19,640
宿泊施設	0	0
研修施設	4,889	4,930
計	48,939	47,177

2 利用料金の収入の実績

利用料金の収入の実績は下記のとおりである。(単位:円)

	R5	R6
支援費	148,018,706	162,979,114
診療報酬	6,198,708	5,769,917
介護保険	9,170,529	8,421,657
運動施設	1,087,980	841,315
宿泊棟	0	0
計	164,475,923	178,012,003

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	R5	R6		R5	R6
指定管理料	158,822,685	160,865,000	事業費	42,809,424	47,170,609
利用料金収入	164,475,923	178,012,003	管理費	402,087,491	411,256,638
その他の収入	110,898,056	108,571,314	その他の支出	3,394,423	2,594,092
合計 (a)	434,196,664	447,448,317	合計 (b)	448,291,338	461,021,339
収支差額 (a)-(b)	△14,094,674	△13,573,022			

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

<p>成果目標</p>	<p>1 日中活動系サービス利用率 80%【日中活動延べ人数/年間日中活動利用定員】 2 リハビリテーションの実施件数 5,300 件 3 三重県障がい者スポーツ大会・三重県ふれあいスポレク祭参加人数 3,500 名 4 福祉用具相談支援件数 350 件</p>
<p>成果目標に対する実績</p>	<p>1 日中活動系サービス利用率 65.9%【10,640 人/16,140 人】 2 リハビリテーションの実施件数 3,751 件 3 三重県障がい者スポーツ大会・三重県ふれあいスポレク祭参加人数 2,909 名 4 福祉用具相談支援件数 222 件</p>
<p>今後の取組方針</p>	<p>1 日中活動系サービス利用率 65.9%であり、目標値 80%を下回った。 近隣における新規施設が増えたことなどから、コロナ禍前の水準までには回復していないが、利用率は、昨年度(62.4%)より 3.5 ポイント向上している。 今後も、支援部ケースワーカー及び高次脳機能障害支援コーディネーターを中心に病院入院者や地域包括支援センター利用者のニーズ把握に努めるとともに、利用案内や広報誌の作成、チラシ・PRビデオを活用してニーズの掘り起こしと施設のPRに努め、関係機関と連絡を密にして利用率を高めていく。</p> <p>2 リハビリテーションの実施件数 3,751 件であり、目標値 5,300 件を下回った。 介護保険利用者の高齢化により、通所が困難になったこと、また施設へ入所することで利用が中止になるケースが増えたこと等がその理由としてあげられる。 今後も施設のPRに努め、関係機関と連絡を密にして利用率を高めていく。</p> <p>3 三重県障がい者スポーツ大会・2024 三重県ふれあいスポレク祭参加人数 2,909 名であり、目標値 3,500 名を下回った。 卓球(一般卓球): 2月8日実施予定が大雪警報のため中止になったが、令和5年度よりも参加人数が増えた(令和5年度 2,618 名)。参加人数については改善傾向にあるが、今後も障がいのある方の社会参加の促進及び県民の障がい者に対する理解を深めるため、関係団体等と連携して実施していく。</p> <p>4 福祉用具相談支援件数 222 件であり、目標値 350 件を下回った。 福祉用具を扱う福祉用具専門相談員・相談窓口の増加やオンラインでの研修等が増え、支援者が資質向上を図る機会が増えたこと、インターネットの普及により、検索して容易に解決できるようになったり、格安の便利道具が増えたりして、福祉用具が容易に手に入るようになったこと、また、三重県障害者相談支援センターからの判定業務についても、コロナ禍以降、来所することが減ったこと等がその理由としてあげられる。 今後も引き続き、障がいのある方が安全で快適な生活が送れるよう、相談支援を継続していく。</p> <p>※自主目標の地域生活移行率は 82.3%であり、目標値 50%を大きく上回った。 引き続き、個別支援計画に基づいて地域生活移行支援を実施し、通過型訓練施設としての役割を果たしていく。また、簡易自動車運転シミュレーターによる評価・パソコン訓練等、利用者ニーズに合わせた取組を強化していく。</p>

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	B	B	三重県身体障害者総合福祉センター管理に関する協定に基づき、県担当課との協議のもと、適正に管理業務を実施した。
2 施設の利用状況	B	B	生活援助棟については、医療機関及び行政機関等と連携し、受傷後から社会復帰後の支援まで関わり、通過型訓練施設として利用者の社会復帰支援を実施した。 また、診療については、主に医療機関及び居宅介護支援事業所等と連携し、在宅障がい者、要介護者等を対象とした外来通院リハビリテーション、通所リハビリテーション等を実施した。
3 成果目標及びその実績	C	C	良質のサービスを提供し、利用者の満足度を高めるため、ニーズの変化に対応するバランススコアカードをツールに用いて事業運営を実施した。 実績について、目標値に至らなかったが、地域生活移行率については、目標値を大きく上回った。

※評価の項目「1」の評価： 「A」→ 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。

「B」→ 業務計画を順調に実施している。

「C」→ 業務計画を十分には実施できていない。

「D」→ 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価： 「A」→ 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。

「B」→ 当初の目標を達成している。

「C」→ 当初の目標を十分には達成できていない。

「D」→ 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・日中活動系サービス利用率 65.9%について、目標値 80%は達成できなかったが、高次脳機能障がい者への訓練や、自動車訓練、日本情報処理検定協会検定試験の実施や受験支援等、専門的・特徴的な訓練を実施した。情報訓練では、情報処理技術の習得や向上を目指して取り組まれた結果、多数の方が各種資格を取得された。自動車訓練では、運転技術を習得して就労先へ通われたり、生活の幅を広げたりと、生活の質の向上へとつなげることができた。調理訓練では、利用者の方とメニューの献立を考えたり、実際に調理を行ったりして、必要な機能を身につけていただいている。また、施設内において日課を工夫することで、生活にメリハリを付け、季節を感じながら楽しみとなる時間を過ごしていただくことができた。 ・成果目標に対する実績(①日中活動系サービス利用率 80%、②リハビリテーションの実施件数 5,300 件、③三重県障害者スポーツ大会・三重県ふれあいスポレク祭参加人数 3,500 名、④福祉用具相談支援件数 350 件)について、達成することができなかった。 ・自主目標の地域生活移行率は 82.3%であり、目標値 50%を大きく上回った。 ・三重県障がい者スポーツ大会について、障がいのある方の社会参加の促進及び県民の障がい者に対する理解を深めるため、関係団体等と連携して実施した。 ・医療保険、介護保険でのリハビリテーションについて、ニーズを分析しながら必要なリハビリテーションを効果的に実施した。 ・現状を正確に把握、認識したうえで改善につなげるため、障害福祉サービスや診療所、スポーツ施設等利用者を対象に、アンケートを2回(令和6年8月回答率 94.3%、令和7年2月回答率 92.5%)実施し、利用者の満足度向上につなげた。 ・利用者満足度は、利用者へのきめ細かな対応等が功を奏し、93.4%と高水準であった。 ・アンケート内容には権利擁護の観点から職員が適切な支援を行っているかどうかについての項目もあり、利用者へに回答していただいている。その上で、アンケート内容についての確認・検証を行い、今後のサービス向上に活かしている。 ・知識の定着だけでなく、職員一人一人が虐待や不適切なケアについて考えていただくことを目的として虐待防止研修を実施した。
--------	---